

美術科の学習方法

美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、創造の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、美術の基礎能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

1年

- ◇授業でのルール、教室でのマナーや態度、用具の扱い方などの基本的な能力を身につける。
- ◇楽しみながら美術の授業に取り組む。(心情面の重視)
- ◇対象を深く観察する能力や、豊かに発想し構想する能力の育成、及び基礎的な技術の定着を図る。
- ◇美術作品や名作などの基礎的な理解や見方を広げる。

2・3年

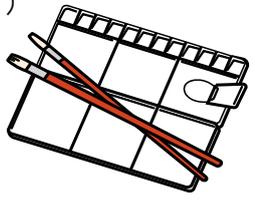
- ◇主体的に美術の活動に取り組む。(態度の重視)
- ◇独創的、総合的な見方や考え方を培い、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。
- ◇美術作品や文化遺産などへの理解や見方を深める。

美術科の学習計画

	1 学年	2 学年	3 学年
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・風景画の描き方(絵画) ・写生会 ・アクリル絵の具の技法 ・スタンドグラス(デザイン) ・名作の見方(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・風景画の描き方(絵画) ・写生会 ・名作の見方(鑑賞) ・クロッキー(絵画) ・心象抽象画(絵画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・風景画の描き方(絵画) ・仏像の見方(鑑賞) ・写生会 ・名作の見方(鑑賞) ・光のアート(共同制作)
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み課題作品・鑑賞会 ・美術バッグ制作(デザイン、工芸) ・美術バッグ発表会(鑑賞) ・ドアプレート(デザイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み課題作品・鑑賞会 ・自画像(絵画) ・動きのある人物像(立体彫刻) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み課題作品・鑑賞会 ・陶芸ランプシェード(工芸) ・卒業アルバムの表紙(絵画、デザイン)
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアプレート鑑賞会(鑑賞) ・新聞動物園(彫刻) ・新聞動物園鑑賞会 ・紙で作る(デザイン・工芸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水墨画(絵画) ・私のカタチ(彫刻) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手ぬぐいART(彫刻、工芸)

美術科の評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価する内容	造形的な視点を理解しながら、表現方法を創意工夫し、作品を創造的に具現化している。	試行錯誤の末に主題を見極め、豊かな発想とともに構想を練り上げることができる。また美術や文化に対しての見方や認識を深めることができる。	創造活動の喜びを味わい、自ら主体的に表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法など	<p>評価する内容、3つの観点（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）の達成度で評価します。</p>
	<p>* 評価資料</p> <p>授業で制作した作品、アイディアスケッチなどの習作。 （ねらいに合っているかどうか、技法や表現の工夫など）</p> <p>取り組みや活動の様子。（意欲、集中力、協力、準備、片づけなど）</p>
	<p>* 評価方法</p> <p>観察、チェック、個人記録の読み取り、テストなど。 以上を総合的に判断し、評価を決めます。</p>
	<p>* 評定について</p> <p>観点の項目ごとに、それぞれABCで行う。（十分満たしているA：おおむね満たしているB：努力を要するC）そして、観点の評価の総合判定により評定をつける。（特に高い程度を満たしている5：十分満たしている4：おおむね満たしている3：努力を要する2：いっそう努力を要する1）</p>
	

美術科の学習の仕方

美術の学習は、人それぞれの生き方や経験、思いを形にしていく「表現する」教科です。制作の過程においても完成した作品にも、その人の生き方や考え方が顕著に表されます。生涯を通して楽しく学び続けることのできる基礎を培うことが求められている昨今、創意工夫は勿論のこと、美しいものを美しいと感じられる素直な心や、自己表現力、達成する喜び、そしてまた、仲間と一緒に描いたり制作したりする共同の意識なども求められていると言えるでしょう。

また、自分の作品に自信と誇りを持ち、生活や暮らしの中に飾られ生かされてこそ、真の美術教育になり得ると考えられます。たくましい体と豊かな心は、誰もが持ちたいと願うでしょう。物事に対して感動する心は、人間として生きていく上で、とても大切です。例え目に見えなくても点数に表れなくても、心のビタミンのようなもので、知らず知らずのうちに私たちの心の中に蓄積されて、やがて心豊かな感性となって花開いていきます。美術はこの感性を育てる学習です。

◎授業で…

- ・自ら進んで活動すること。（アイディアを考える。資料、用具、材料の準備。制作の計画など）
- ・構想を練り、工夫すること。（個性を生かす）
- ・基本的な技術を身につけること。（美しい作品にするにはどのような技法や方法があるか）
- ・作品のよさや美しさを感じ取ること。（自他の作品のよさや美しさを味わい、制作に生かす）

◎日常で…

- ・様々な経験が作品に生かされる！運動を頑張る・映像を見る・素敵な音楽を聴く・好きなアニメや漫画に没頭する・洋服などの色の組み合わせを考えてみる・自分の部屋のレイアウトを考える・スポーツ中継などをデザインの観点から見る・美しい風景や場所に行ってみる→表現の土台になる
- ・資料やインターネット上の作品を鑑賞し、表現方法を研究する。
- ・積極的に美術館や展覧会等へ観覧に行き、文化としての美術（芸術）を学ぶ。

◎授業時数について…

- ・各学年とも週に1時間です。（1年生のみ、週に2時間になるときがあります。）

◎授業に必要なもの<美術バッグ>

- ・筆記用具（鉛筆・消しゴム）
 - ・教科書・資料集
 - ・クロッキー帳
 - ・アクリルガッシュ絵の具セット（ぞうきん・筆洗器）
 - ・画板（写生会の時のみ）
- その他、必要な用具は、作品によって異なります。

